

該当する欄に○印を記入してください。

2	法定	自主
	○	

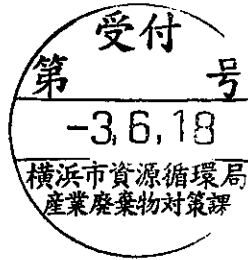
様式第二号の八(第八条の四の五関係)

(第1面)

産業廃棄物処理計画書

令和3年 6月 16 日

横浜市長 殿



提出者

住所 東京都中央区日本橋三丁目5-12

氏名 中部土木株式会社 東京支店 支店長 畑 典雅

(法人にあっては、名称及び代表者の氏名)

電話番号 03-6262-7501

廃棄物の処理及び清掃に関する法律第12条第9項の規定に基づき、産業廃棄物の減量その他その処理に関する計画を作成したので、提出します。

事業場の名称	中部土木株式会社 福浦作業所	自主管理番号	新規
事業場の所在地	神奈川県横浜市金沢区並木1丁目 18-5-201	TEL(連絡先):	090-6801-7683
計画期間	令和3年4月1日～令和4年3月31日(1年間)		

当該事業場において現に行っている事業に関する事項

① 事業の種類	D-建設業 (具体的には) 舗装工事、土木工事		
② 事業の規模  ※ 前年度実績を記入、医療機関は前年度末時点の病床数を記入。	製造業	製造品出荷額	0百万円
	建設業	エリア内元請完成工事高	229百万円
	医療機関	病床数	0床
	その他の業種	売上高	0百万円
(上記項目に該当しない場合にはこちらに記載をしてください。)			

③ 従業員数	2名
--------	----

④ 産業廃棄物の一連の処理の工程	<p>道路工事(舗装工事)</p> <p>アスファルトがら・・・中間処理施設にて再生アスファルト合材として再資源化</p> <p>コンクリートがら・・・中間処理施設にて再生路盤材として再資源化</p> <p>その他がれき・・・中間処理施設にて再生路盤材として再資源化</p> <p>建設汚泥・・・中間処理施設にて中和水と脱水ケーキに分離。中和水は切断水として使用</p> <p>脱水ケーキはコンクリート灯の原料として再資源化。</p> <p>廃プラ・・・中間処理施設にて分別。最終処分場にて再資源化。</p>
------------------	--

産業廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項		
(管理体制図)		
東京支店長―――関東工事事務所 所長―――現場代理人―――監理技術者 * 廃棄物担当 * 処理計画書作成担当		
産業廃棄物の排出の抑制に関する事項		
① 現状	【前年度(令和2年度)実績】	
	産業廃棄物の種類数	3 種類
	① 排出量	1,286.0 t
* 種類ごとの前年度排出量は、別紙のとおり。		
(これまでに実施した取組)		
資源の再利用を考慮した処理施設の利用を考慮している。		
② 計画	【(令和3年度)目標】	
	産業廃棄物の種類数	3 種類
	① 排出量	1,028.0 t
* 種類ごとの本年度排出目標量は、別紙のとおり。		
(今後実施する予定の取組)		
工事施工前に再生資材の使用について検討し、再生資材の使用を積極的に実施する。		
産業廃棄物の分別に関する事項		
① 現状	(分別している産業廃棄物の種類及び分別に関する取組)	
	分別処分については作業に従事する者全員に周知して行った。	
② 計画	(今後分別する予定の産業廃棄物の種類及び分別に関する取組)	
	一時的な活動とならないよう、引き続き指導を行う。	

自ら行う産業廃棄物の再生利用に関する事項			
① 現状	【前年度(令和2年度)実績】		
	②+⑧ 自ら再生利用を行った産業廃棄物の量	0	t
	* 種類ごとの前年度自ら再生利用量は、別紙のとおり。		
(これまでに実施した取組)			
現場で発生する資材の再利用を施工前に提案し実現を図ったが成果は得られなかった。			
② 計画	【(令和3年度)目標】		
	②+⑧ 自ら再生利用を行う産業廃棄物の量		t
	* 種類ごとの本年度自ら再生利用量は、別紙のとおり。		
(今後実施する予定の取組)			
コストの削減や、資源の枯渇化の防止をアピールし成果を上げていく。			
自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項			
① 現状	【前年度(令和2年度)実績】		
	⑤ 自ら熱回収を行った産業廃棄物の量	0	t
	* 種類ごとの前年度自ら熱回収を行った量は、別紙のとおり。		
	⑦ 自ら中間処理により減量した産業廃棄物の量	0	t
* 種類ごとの前年度自ら中間処理により減量した量は、別紙のとおり。			
(これまでに実施した取組)			
自社の処理施設がないため、実施した取り組みはない。			
② 計画	【(令和3年度)目標】		
	⑤ 自ら熱回収を行う産業廃棄物の量		t
	* 種類ごとの本年度自ら熱回収を行う量は、別紙のとおり。		
	⑦ 自ら中間処理により減量する産業廃棄物の量		t
* 種類ごとの本年度自ら中間処理により減量する量は、別紙のとおり。			
(今後実施する予定の取組)			
自社の処理施設がないため、実施した取り組みはない。			

## 自ら行う産業廃棄物の埋立処分又は海洋投入処分に関する事項

① 現状	【前年度(令和2年度)実績】		* 種類ごとの前年度自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った量は、別紙のとおり。
	③+⑨ 自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った産業廃棄物の量	0 t	
	(これまでに実施した取組)		
	なし		
② 計画	【(令和3年度)目標】		* 種類ごとの本年度自ら埋立処分又は海洋投入処分を行う量は、別紙のとおり。
	③+⑨ 自ら埋立処分又は海洋投入処分を行う産業廃棄物の量	t	
	(今後実施する予定の取組)		
	なし		

## 産業廃棄物の処理の委託に関する事項

① 現状	【前年度(令和2年度)実績】		* 種類ごとの前年度処理委託量は、別紙のとおり。
	⑩ 全処理委託量	1,286.0 t	
	⑪ 優良認定処理業者への処理委託量	0 t	
	⑫ 再生利用業者への処理委託量	1,285.5 t	
	⑬ 熱回収認定業者への処理委託量	0 t	
	⑭ 熱回収認定業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	0 t	
	(これまでに実施した取組)		
	再生資材の生産応力を有する業者の選定。		

② 計画	【(令和3年度)目標】		
	⑩ 全処理委託量	1,028.0 t	* 種類ごとの本年度処理委託量は、別紙のとおり。
	⑪ 優良認定処理業者への処理委託量	11.6 t	
	⑫ 再生利用業者への処理委託量	1,028.0 t	
	⑬ 熱回収認定業者への処理委託量	t	
⑭ 熱回収認定業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	t		
(今後実施する予定の取組)			
引き続き、再生利用を前提に建設廃材の処分をおこなう。			
※ 事務処理欄			

備考

- 1 この様式は、前年度(令和2年度)の産業廃棄物の発生量が1,000トン以上の事業場ごとに1枚作成し、提出してください。  
また、前年度(令和2年度)の産業廃棄物の発生量が1,000トン未満の事業場にあつては、神奈川県・横浜市・川崎市・相模原市・横須賀市が推進する廃棄物自主管理事業へ参加するにあたり、事業場ごとに1枚作成し、提出してください。
- 2 当該年度(令和3年度)の6月30日までに提出してください。
- 3 「当該事業場において現に行っている事業に関する事項」の欄は、以下に従って記入してください。
  - (1) ①欄には、日本標準産業分類(中分類)の区分を記入してください。
  - (2) ②欄には、製造業の場合における製造品出荷額(前年度実績)、建設業の場合における元請完成工事高(前年度実績)、医療機関の場合における病床数(前年度末時点)等の業種に応じ事業規模が分かるような前年度の実績を記入してください。
  - (3) ④欄には、当該事業場において生ずる産業廃棄物についての発生から最終処分が終了するまでの一連の処理の工程(当該処理を委託する場合は、委託の内容を含む。)を記入してください。
- 4 「自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、自ら中間処理を行うに際して熱回収を行った場合における熱回収を行った産業廃棄物の量と、自ら中間処理を行うことによって減量した量について、前年度の実績、目標及び取組を記入してください。
- 5 「産業廃棄物の処理の委託に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、全処理委託量を記入するほか、その内数として、優良認定処理業者(廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令第6条の11第2号に該当する者)への処理委託量、処理業者への再生利用委託量、認定熱回収施設設置者(廃棄物の処理及び清掃に関する法律第15条の3の3第1項の認定を受けた者)である処理業者への焼却処理委託量及び認定熱回収施設設置者以外の熱回収を行っている処理業者への焼却処理委託量について、前年度実績、目標及び取組を記入してください。
- 6 それぞれの欄に記入すべき事項の全てを記入することができないときは、当該欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付してください。また、それぞれの欄に記入すべき事項がないときは、「―」を記入してください。
- 7 ※欄には、何も記入しないでください。

